任期2年目を迎えて

日本小児科医会会長　天野　曄

盛岡の第5回定例代議員会で会長に選出していただき1年が経過した。この間広い分野で多くの成果を得られたことは執行部，各種委員会，代議員会並びに全国の会員各位の強力なご支援のおかげと衷心から感謝申し上げる。

昨年，就任挨拶で述べたことを思い出して見たい。今回の第9回セミナーには600名を超える多数の参加者があった。札幌では異例のことと笹原会長は言われたが，万全の準備を整えて下さった北海道小児科医会会員の皆様に深く感謝すると同時に，全国から生涯研修のために貴重な時間をさいて参加された多くの会員の，小児医療にかける熱い情熱に心から感銘を覚えている。今後は京都，鹿児島，横浜と3年後まで開催地が決まっているが，尚一層の発展を願ってやまない。

社会保険関連では，とくに病院小児科の経営について学会と協力しながら交渉を重ね，十分ではないにしても，他科にくらべて良い結果を得たと思う。とくに乳幼児の入院時医学管理料は35ポイント，50％をこえる増収となった。しかし元もと低医療費の小児科である。今後更なる改正に期待したい。

予防接種に関しては，接種者，被接種者ともに安心して施行できる体制を目指しているが，平成11年度の予防接種法見直しに向けて行政に新しい動きが見られ，本会にも公衆衛生審議会予防接種部会への参加呼びかけがあった。麻疹の問題のみならず，世界から後ろ指をさされない新しい予防接種法の制定に期待したい。予防接種被害の救済制度についても引き続き働きかけていきたい。

天野　曄 会長

国際交流に関しては多方面で進展がみられた。すなわち，WHO，UNICEF，CDC，PAHO(Pan American Health Organization)共催の世界麻疹撲滅会議から招待をうけ，相変わらず我が国の麻疹対策を非難されたが，CDCから世界の感染症情報をE-mailでもらうことになった。例えば「今年のエルニーニョの影響でカリフォルニアに大洪水が起こり，齧歯類の異常発生によりペストの流行が危惧される」などと聞けば，もし日本に侵入した場合の危機管理体制はどうかなどと考え，背筋が寒くなる。

「あたたかい心を育てる運動」は内藤名誉会長らが始められたものであるが，本会もこの趣旨に賛同し，今後後援することとなった。関連事業である日中育児研究会も次回は第4回目となり主題選定をすることになっている。

頻発する少年の反社会的事件に直面し，諮問委員会として「子どもの心」対策委員会を立ち上げた。短期間での解決は不可能との判断から，じっくりと時間をかけて少しずつ問題点を処理していきたい。折しも，中国でも青少年の心の問題が取り上げられ，李　嵐清副総理担当で委員会が作られた。

法人化については塙　賢二委員長の献身的ご努力で，わずかずつ進展を見せている。早く明るい朗報を聞きたいものである。